

日頃から災害への備えを万全に

問い合わせ 防災課（市役所5階）

自助・共助が大切です

自然災害そのものを防ぐことはできませんが、万一の災害時に自分や家族、そして自分たちのまちをどう守るのかを考えておくことが大切です。

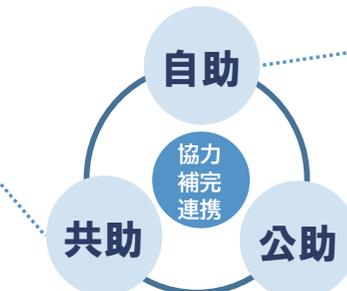
「自分の身は自分で守る」（自助）、「近所同士で助け合うこと」（共助）が、とても重要になります。

各家庭で最低3日分の食料や水などを備蓄するとともに、家族や隣近所同士での安否確認や、救出・救助、初期消火活動など、日頃から助け合える環境をつくっておきましょう。

地域の役割

- 地域防災活動の推進
 - 協力して消火・救出活動
- ### 事業所の役割
- 地域との助け合い
 - 顧客・従業員等の安全確保

自分の命は自分で守る



地域の助け合い 行政が担う防災対策

住民の役割

- 地域の災害について知る
- 防災知識を身に着ける
- 落ち着いて自分の身を守る
- 家族を守る

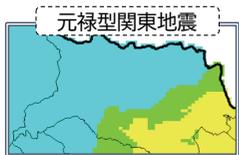
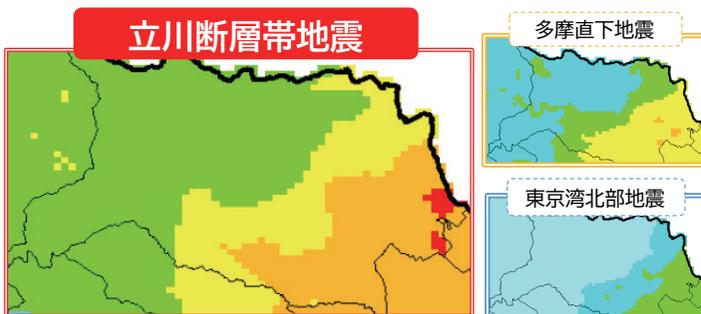
行政の役割

- 防災マップ等の作成
- 被害想定・被害軽減策の検討
- 地域防災体制の仕組みづくり

青梅市の地震発生時の被害の特徴を知っておきましょう

近い将来、発生するとされている主な地震と震度

■7 ■6強 ■6弱 ■5強 ■5弱 ■4 ■3以下



(出典) 東京都防災ホームページ

震度6強以上の地震が起こると...



立って移動できない、揺れて飛ばされることもある。固定していない家具が移動し、倒れる。



大きな地割れや地すべり、土砂崩れが発生することがある。



耐震性の低い木造建物が傾いたり、倒れやすくなる。

ほかにもこんなことが...

大きな地震が発生した場合、電気、ガス等にも被害が生じる可能性があります。ライフラインが停止した場合、復旧までにかかる時間が異なります。



「もしも」に備えましょう

「モノ」の備え

耐震性の確保や、不足するもの等を想定し準備しましょう。

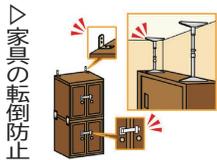
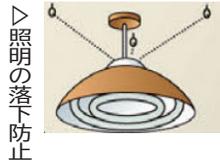
日常備蓄をする

ふだんから使っているものを少し多めに備え、使った分を補充するようにしましょう。(ローリングストック方式)



自宅の安全対策をする

家具の転倒や家電の飛び出し等を防ぐ対策をしましょう。



トイレを備える（目安：1日7～8回）

下水道の破損や上水道の断水に備え、携帯トイレや給水シート等を備えましょう。

洋式便器が使える場合

- ①便器に大きめのポリ袋（4.5Lくらい）を二重にかぶせる。
- ②給水シートや凝固剤（丸めた新聞紙や猫砂等で代用可）を袋に入れる。
- ③用を足したら一番上の袋を強く閉じて燃やすごみで捨てる。



便器が使えない場合

- 段ボール箱をガムテープ等で補強し用を足す穴を開けて仮の便器を作る。
- ※バケツ、大きめのポリ袋、新聞紙、ペット用トイレ砂等で代用可
 - ※その後は左記①～③と同様



「家族」の備え

連絡方法や避難先（集合場所）について家族全員で共通認識を持っておきましょう。

家族防災会議

避難先（集合場所）や経路、連絡方法等を家族全員で確認しましょう。特に集合場所と時間を具体的に決めておくと、会える確率が高くなります。

- (例) ○○学校の南門の前で
→施設が広い場合に行き違いとならない決め方にする。
- (例) 午前9時と午後4時に10分間待つ
→待つ方が帰るタイミングに困らない決め方にする。

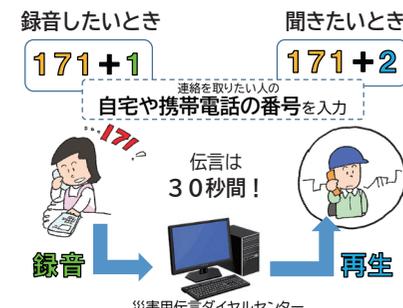
避難先や道順の確認

避難先（集合場所）は安全な場所にあるか、経路上に危険がないか等を確認しましょう。



災害用伝言ダイヤル「171」

安否情報（伝言）を音声で録音（登録）することで、全国からその音声を確認することができます。



災害用伝言板

（携帯電話・スマートフォン）

安否情報を文字で登録し、携帯電話やパソコンから確認することができます。

